

# 信濃大町

## — 食とアートの廻廊 —

信濃大町 食とアートの廻廊 シンポジウム

「なぜ国際芸術祭を地方で開催するのか？」

11:00~12:50 入場無料

世界中のどこでも、人は日々の暮らしから土地と関わり、文化を育んできました。科学が進歩して効率と利便性を目指した20世紀から、自然や世界の多様性が混ざりあい、ローカルとグローバルが同時進行する21世紀が始まっています。そこで必要な創造力とはなんなのか？地域の魅力をどうやってアートで表現するのか？世界とつながる地域性とはどういうことなのか？。地方で開催されている国際芸術祭のアートディレクター達と大町市長が、2017年に信濃大町で開催する芸術祭へ向けて思いを語ります。

Kochi-Muziris Biennale Google photo Archive



北川 フラム氏  
アートディレクター



スダーシャン・シェッティ氏  
美術家・キュレーター



川俣 正氏  
美術家



牛越 徹氏  
長野県大町市長



### 北川フラム アートディレクター

新潟県高田市(現上越市)生まれ。主なプロデュースとして、現在のガウディブームの下地をつくった「アントニオ・ガウディ展」(1978-1979)、日本全国80校で開催された「子どものための版画展」(1980-1982)、全国194ヶ所38万人を動員し、アパルトヘイトに反対する動きを草の根的に展開した「アパルトヘイト否!国際美術展」(1988-1990)等。

地域づくりの実践として、2000年にスタートした「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」(第7回オーライ!ニッポン大賞グランプリ〔内閣総理大臣賞〕他受賞)や「瀬戸内国際芸術祭 2010、2013」(海洋立国推進功労者表彰受賞)等の総合ディレクターを務め、日本を代表するアートディレクターとして評価されている。

著書 「希望の美術・協働の夢 北川フラムの40年 1965-2004」 角川学芸出版  
「ひらく美術」ちくま新書 他多数

### 川俣正 アーティスト

北海道三笠市生まれ。1982年にヴェネツィア・ビエンナーレの参加アーティストに選ばれ、その後、欧米を中心に高い評価を獲得し続け、世界各国で作品制作を行っている。また、2005年には、アーティストでありながら横浜トリエンナーレ2005の総合ディレクターとして大規模な国際展を開催。

また、東京藝術大学が革新的な試みとして設置した「先端芸術表現科」の立ち上げに主任教授として着任し、既存の美術表現の枠組みを超えていく試みを実践してきた。現在はフランス、パリ国立高等芸術学院の教授であり海外でもっともよく知られている日本人アーティストの一人である。

著書 「Book in Progress 川俣正デイリーニュース」INAX 叢書  
「アートルースマイノリティとしての現代美術」フィルムアート社

### Sudarshan Shetty

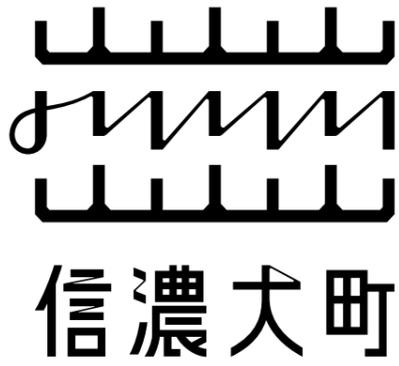
### スダーシャン・シェッティ アーティスト

インドのマンガロール生まれ。インド西海岸の大都市ムンバイ(ボンベイ)を拠点に、90年代から彫刻やインスタレーションなど本格的な制作活動を展開。近年では、福岡アジア美術館での個展や、韓国の「光州ビエンナーレ」(2000年)やイギリスのテート・モダンで開催された展覧会「センチュリー・シティ」(2001年)に参加するなど、インドを代表する作家のひとりとして国際的に注目を集めている。2016年に開催するコーチ・ムジリスビエンナーレのアーティストディレクターとして、活躍が期待されている。

### コーチ=ムジリスビエンナーレとは？

南インドのケララ地方のコーチと、古代からローマ、ギリシャ、中国、中東などの東方と西方とを結ぶ港町として栄えていた古代都市ムジリスを舞台に2012年より開催されている国際芸術祭。前回の2014年は30か国より95名のアーティストが参加し、地域の屋内外に設置されたアート作品を回遊する仕組みをつくった。インド国内外で活躍するダヤニータ・シン、スタジオ・ムンバイ、アニッシュ・カプーアその他、海外からは第56回ヴェネツィア・ビエンナーレ・オーストラリア館代表フィオナ・ホール、森美術館で個展開催中のディン・Q・レ、日本からクワクボリョウタなどが参加した。

# 信濃大町 食とアートの廻廊



— 食とアートの廻廊 —

信濃大町の地勢を「廻廊」にみたくて  
風土の生活文化を表現する「食」と  
地域を再発見する「アート」の力を活用し  
北アルプス山麓の自然と文化を体感する  
アートプロジェクトを開始します。

「信濃大町 食とアートの廻廊」は、長野県大町市を中心に2017年の開催を計画している国際芸術祭です。北アルプスの源流を讃える信濃大町を舞台に、土地に根ざした生活文化を表現する「食」と、革新的な創造性で地域の価値を再発見する「アート」の力を活かして、北アルプス山麓の魅力を世界に発信し、創造性と文化交流の活性化を目指します。

信濃大町の地域性、それぞれの場所性を大切に、大町市の市街地（JR信濃大町駅周辺）、源流域（大町温泉郷周辺）、仁科三湖、鷹狩山など、それぞれに特徴のある魅力的な開催エリアを設定し、建築や空き家、遊休施設や屋外空間を活用した多様なプロジェクトを計画しています。

## 開催概要

開催期間：2017年春（詳細未定）

会場：長野県大町市全域

実行委員長：牛越徹（大町市長）

総合ディレクター：北川フラム

主催：信濃大町食とアートの廻廊実行委員会

## 5つの基本テーマ

### アートプロジェクト

国内外の感性豊かなアーティストが信濃大町に訪れ、地域の魅力を再発見するアートプロジェクトを行います。アートは、調べてもわからないような世の中の不思議を、自らの想像力で追及するための一つの方法です。花がなぜ美しいのか？という素朴な疑問から考えを進めていく事で、いままで思いもよらなかった未来を発見すること。情報があふれている現代だからこそ、創作活動を通して世界を認識するようなアートプロジェクトによって、信濃大町の新しい可能性を模索します。

### 地域に継承される美

地域はその土地で営まれてきている生活と文化の総称です。地域に寄り添った暮らしには、長い歴史の中で自然や風土と共に育まれた美しさが宿っています。芸術文化のみならず、素晴らしい活動をしている地元企業や市民団体が、地域の魅力を継続的に発信できる市民プロジェクトを応援します。そして、この土地で暮らしてきた人々の深い知恵や技術と、外から訪れるアーティストの感性が反応し合う事で生まれる創造的な活動を推進します。

### 表現する食

地域の気候風土に育まれた「食」は、そこに住む人の生活と文化と歴史を表現します。信濃大町の食文化は、北アルプス山麓の厳しい自然と豊かな四季に育まれました。塩の道の交流地点として集まった海の恵みと、里山の恵みにあふれた食材を活用して、親から子へと受け継がれてきた信州の食文化を、五感で楽しめる食プロジェクトを創出します。

### 戦略的おもてなし

大町市はアジア最大の土木建築物である黒部ダム of 玄関口としても知られ、国内外から多くの観光客が来訪しています。しかしながら、グリーンシーズンの避暑地としても、スノーリゾートとしても、隣接する白馬・安曇野ほど認知されておらず、情報発信不足から多くの観光客が通過してしまうという現状があります。

その状況を変えるため、信濃大町に訪れた方が信濃大町の楽しみ方を一元的に情報収集できる拠点を整備するとともに、市内交通の効率化や、信濃大町観光ルートの構築、発信なども含めた地域全体のおもてなし力向上に努めます。

### 世界にひらく故郷

インターネットの普及によってグローバル化する現代だからこそ、自らが生まれ育った地域を学び、誇りをもつための活動が大切です。そのために、故郷の文化に敬意をもつのと同等に、様々な国や民族などの多様な背景を理解し受容する想像力、そして同時代を生きる世界中の人々と切磋琢磨するために、ローカルな「いまここ」からの創造性が求められています。日常の風景を見直す地域活動や、国際的アーティストとの交流を通して、未来を切り開く人材育成の機会を推進します。

web : [www.shinano-omachi.jp](http://www.shinano-omachi.jp)

mail : [info@shinano-omachi.jp](mailto:info@shinano-omachi.jp)

主催：信濃大町 食とアートの廻廊実行委員会